

Principal Correspondence

教育目標

新しい学友を迎えて、学校も一段と活気付いている今日この頃です。

最近の学問では、「IQ は必ずしも続かないが、人間力＝人間性知能は育った幼少期からずっと続く」と言われています。

この学校は、まず人間力を育むことを最大の校訓に掲げています。当校で言うなら、すなわち「**自立**」「**創造**」「**指導力**」の3項目であります。

ある国の難民キャンプに物資を届けるお手伝いをしたことがありました。

残念ながら何年も収容されていた人にとっては、もらうのが当たり前。施しを受けるだけで、自立する気力の無い人々が多く、衝撃を感じました。キャンプの人々に食料を配ることも大切ですが、よく言う釣竿を与えて、自分で自活する術を教えることがもっと大事に思えたのです。そうでなければキャンプからは一生出られません。



日本でも似たような事は無いでしょうか？政府や行政や、教育でも、ありとあらゆるところで、自助努力することなしに、「世の中が悪い！」「あの人が悪い！」などなど聞こえてきます。「自立しないで生きている甲斐があるの？」と国民に問うた昔の英国のサッチャー首相の言葉が脳裏をよぎります。「**自立**」はある意味、教育の最終目標です。

これからの世界に必要な能力は「創造性」であると思います。

人類の存亡にかかわる大きな問題が山積する現代社会。日本に限っても、技術立国、少子化、高齢化、国際化、地方分権・・・実に様々な課題がありますがこれらの解決に必要なのは類稀なる発想や、新しい哲学、ビジョンを構築する力です。前例主義の優等生より時代を切り開く人を！「**創造性**」の芽をこの時期にぜひ育みたいと考えます。

そして日本の社会に一番欠けている「指導力教育」は全人格教育そのものとも言えるでしょう。リーダーになるには「人望」が無ければなりません。また、民主社会ではリーダーは交代しますから、「リーダーシップ」とともに「フォロワーシップ(チームの目標達成に貢献できる力。リーダーを支える力)」も表裏一体で学ばねばなりません。リーダー教育だけでは真のリーダーになれません。これが当校の掲げる「**指導力教育**」です。

勿論こうした人間力教育のうらづけには確かな基礎学力の養成が欠かせません。また、この時期は基礎体力の育成が同じく重要です。

これらが三位一体となって心豊かな少年少女期を提供することが当校の務めと考えています。今年度も新しい歴史を創りましょう。

Principal Correspondence

自立(良い習慣)が学力をつくる

小中学校のときに学校の勉強ができる人に共通する事項です。

- ① しつけがしっかりしている。…身の回りの始末が上手。
- ② 自己学習の習慣が身についている…宿題をすぐやる。
- ③ 自然体験が豊富…キャンプの体験など自然体験が多い。
- ④ 上質の幼児教育を受けている…リリー卒園なら安心です。
- ⑤ 自分の感情を溜め込まず、上手に表現する。語彙が豊富。本好き。
- ⑥ 親や先生に必要なときに、きちんと誉めてもらっている。



勉強ができるのはそれらの習慣の結果で、勉強ばかりでなくアートでもアスリートでも、一流の人は皆こうした習慣をしっかり身に付けてやってきたのです(野球選手のイチローも大谷翔平も自己管理は超優秀です。)

勉強時間と成績はそれほど比例しないという説が最近有力です。気が散らない集中力が大事なのです。



ではその逆はどうでしょう？小学校期に

- ① いつも忘れ物や、なくし物が多い。物を大切にしない。
- ② 宿題や課題を先延ばしにして、結局忘れる。
- ③ 家でテレビゲームばかりしている。出かけるのはショッピングモール。
- ④ 幼稚園や保育園はしつけしっかり形で、体験重視よりも自由保育型の園(集団活動ができず、小学校一年生の担任の先生が一番困る保育形態です。)
- ⑤ 言葉で自分の気持ちを表現できず、黙って溜め込んでしまう。よってときどき爆発してしまう。
- ⑥ 周りからいつもがみがみ口うるさく叱られるだけのことが多い。

こういう子が、中学生や高校生(難しい思春期)になって、突然挨拶ができ自己管理に目覚め、自主的に勉強するようになるでしょうか？

1年生から4年生までが特に重要です。育脳学童教室では個人の成長カルテをもって、個々の児童の心の発達を記録しています。

ぜひ、ご家庭と学童教室が同じ方向を向いて子どもたちの可能性を伸ばしていきましょう。

